

TTC 定例山行実施記録表

2016 年 8 月 10 日 SM

山行名	谷川岳（天神尾根往復） [1977m 群馬県]		
実施日	2016 年 8 月 6 日（土）日帰り レンタカー（ハイエース）利用		
天候／参加人員	天候：快晴/曇り レベル：★★ 参加者：11 名（男 6 名／女 5 名）		
パーティスタッフ	計画/CL： SL： 会計： 救護： カメラ： スタッフ名削除		
参加メンバー	A 班：、 B 班： 参加者氏名削除		
費用 <u>￥7350/人</u> カシバ金￥162	交通費：ハイエースレンタル料 ￥16848//ドライバー謝礼(@18000+距離加算 1000)￥19000// 軽油代(@100 円 × 480 km/5 km)￥9600(待機 50 km含む)//高速代(@6040 × 2)￥12080// 駐車料金￥500//天神平ロープウェイ(往復 @2060 × 11 名)￥22660//以上合計￥80688 集金額(￥80850=￥7350 × 11 人)－実交通費(￥80688)=カシバ金(￥162)		
所要時間	-	歩行時間	休憩時間
	ガイドブック	4 時間 30 分	-
	計画	5 時間 40 分	1 時間 10 分
	実行*	5 時間 20 分	1 時間 10 分
*当初計画の「ノゾキ（オキノ耳から片道 30 分）」を手前の「奥の院（同 10 分）」に変更実施			

実行コースタイム記録

ヨーカドー前 == 圈央厚木IC == 狹山PA == 赤城高原SA == 水上IC == どあいぐち駅 ≒≈ てんじんだいら駅
 6:15 6:30 7:23 8:44/55 9:13 9:35/53 10:02/10
熊穴沢避難小屋....谷川岳肩の小屋(昼食)....谷川岳(オキノ耳)....奥の院....谷川岳(オキノ耳)
 11:03/08 13:00/35 14:05/10 14:20/30 14:37/42
谷川岳肩の小屋....熊穴沢避難小屋....てんじんだいら駅 ≒≈ どあいぐち駅 == 水上IC ==
 14:57/07 16:01 16:40/45 16:55/17:10 17:44
 高坂 SA == 圈央厚木IC == ヨーカドー前
 19:57/40 20:29 20:40(解散)

コースの概要、特記事項、反省事項等

[コース概要]

前日からの好天で、天神尾根ルートはほとんど乾いており、概して安全な歩行ができた。まず「熊穴沢避難小屋」まで（1h）は樹林帯のため、晴天の強い日差しを樹木がさえぎってくれたので、無風下ではあったが快適な歩行ができた。同避難小屋ではまとまった休憩を意図していたが、照りつける太陽で小屋内は外気より高温のよどんだ空気が充満していたため、外の登山道の木陰にて短時間の立ち休憩に変更した。ここを過ぎると頂上までは急峻な登りとなり、クサリやロープの張られた岩場を何度も通過することとなる（★★であるが要注意）。また高度を上げるに従い、直接日差しを受けるようになるため益々息も上がる。

「谷川岳肩の小屋」にて、約 30 分遅れの昼食を終えたのちトマノ耳を経由し、最高峰の谷川岳山頂（オキノ耳）へと向かった。このころ（13 時半）から次第に上空にガスがかかり始め、青空が望めなくなってきた。ただし水平方向の視界はそれほど悪くなかったためトマノ耳から 500m 先に突き出た形の山頂を眺めたときは、登りの苦労をかき消すほどに感動を覚え、天候悪化を気にしながらもそこへ急いだ。但し、稜線上の岩場もあるコースなので右側が切り落ちた場所の通過では慎重に進む。山頂到着後の記念写真もそこそこに、最終目的地の「ノゾキ」を目指すが、既に約 30 分計画遅れであり、残された時間とその後の更なる天候悪化を考え、最終目的地を手前の浅間神社「奥の院」に変更し、下山の途についた。特に下りでは直射日光に晒されることもなく、男女とも美肌へのダメージを最小限のうちに山行を終えることができた。

[特記事項]

1 熊穴沢避難小屋から谷川岳肩の小屋までは、岩場の急登の連続で、登り/下りとも、先行するペースの遅い登山者を追い越すのは危険で難しい（特にグループ行動では）。そのため、この間のコースタイムには余裕を持った計画が必須である（前回 2011 年の実施記録でも同様の経験の記載あり）。

2 ノゾキからの下界を覗き見ることも楽しみにした山行であったが、どこがノゾキのポイントなのか表示がないらしい（対向した登山者からの情報）。谷川岳山頂から一ノ倉岳方面を眺めると、一番下がりきった「ある範囲」からはすぐに右側が切り落ちているのがわかった。多分その範囲がノゾキで、そこからは直下の下界がのぞき込めるのだろうと推測した（いつか行ってみようと思う）。

3 SFさん、緊急対応に大活躍でした（私も是非見習いたいと思いました）。

- ① 谷川岳肩の小屋の前後でメンバー1名が「足のつり」を起こしたが、SFさんがすぐに適切なアドバイス（ザックを他者が背負うなど）と親身な会話と処置（使い捨てカイロの追加貼付など）、小屋への退避/休憩などでピンチを切り抜ける働きをしてくれたため、全体の行動としては大きな計画変更に至らなかった。また、この時期に「使い捨てカイロ」の必要性は私自身は想定外であった。これは共同装備（救護袋）にも入っていないが、参加者のうち3名が持参しており、夏場でも必要になる場合があることを認識した。
- ② 肩の小屋近くのルート脇で足のつりを起こしうずくまる（シニアの？）登山者に対し、SFさんが声をかけ適切な処置とアドバイスを行った（その方はその後小屋にて休憩し、回復後下山されたとのこと）。山人の手本のようなSFさんの対応に敬服しました。

[反省事項]

- 1 下山時、後ろのメンバーと会話をしながら歩行していたためコース標識を見落とし、20mほど西黒尾根方向へ進んだところで、後方のメンバーからコース間違いを指摘され（天神尾根へ）慌てて戻る場面があった。CLとして気の緩みを悔いた（指摘いただいたTMさんに感謝です）。
- 2 レンタカーのハイエースが「中型車（定員11～29名迄）」扱いであることを認識せず、高速料金を「普通車」で計画/算出したため、結果的に負担費用が約300円（/人）増加してしまい参加者にご迷惑をおかけした。
- 3 帰路の高坂SAでの休憩/夕食には30分確保したが、できたら40分程度確保できたらと反省している（時間がなく希望メニューをあきらめた参加者もいたため）。

[その他]

1 今回はCL（2回目）として、以下の3点に注意し行動した。

① 歩行ペースの最適化のため、頻繁に後方を振り返り常に後続者全体の状況把握に心掛けた。

（前回の後方確認回数64回（無視？）→今回約493回（良く見た？））

② 小休止を頻繁に入れ（回数は不明）、息を整えながらの登りに心掛けた。

③ 休憩（休止）時は何分休むかを必ず宣言するようにし、また出発時は事前にあと何分で出発するかをアナウンスするようにした（時間はあくまでも目安で、基本は参加者各人の体調に気を配った判断をした（つもり））。

2 グルメ情報

高坂SAでの休憩/夕食時（30分間）、私は「黄金の味噌ラーメン」に舌鼓を打った。お勧めですが、そのため集合時間にチョット遅れてすみませんでした。

以上